NOVARTIS

06_[illegible]

[illegible]

Image

医療関係者用

Hematologists × 地域医療

Vol.06

大学病院での外来診療や地域医療連携で得られる学びを地域のクリニック診療に生かす

医療法人社団 エス・ディー 平田内科にて取材:2023年5月

医療法人社団 エス・ディー 平田内科 院長／
広島大学 原爆放射線医科学研究所 血液・腫瘍内科研究分野 非常勤医師
平田 裕二 先生

NOVARTIS

Image

大学病院での外来診療や地域医療連携で得られる学びを地域のクリニック診療に生かす

医療法人社団 エス・ディー 平田内科 院長／
広島大学 原爆放射線医科学研究所 血液・腫瘍内科研究分野 非常勤医師
平田 裕二 先生

幅広く診療できる科として「内科の中の内科」である血液内科を選択

一般診療医を目指していたことから、幅広く診療できる科を選ぼうと考え、「内科の中の内科」とも呼ばれる血液内科を専攻しました。血液疾患の全身管理はとても勉強になりましたし、骨髄を破壊したうえで造血幹細胞を移植する治療プロセスなどは他の診療科では経験できない治療で、その神秘性に魅力を感じたことを今でも覚えています。

血液内科の知識・経験はクリニックでも貴重

病院勤務時には、クリニックで血液内科診療を行うことは難しいだろうと考えていました。しかし、チロシンキナーゼ阻害薬(TKI)や免疫調整療法の実用化が進むにつれて、2015年から診療を始めたクリニックでも血液診療を続けられるのではないかと考えるようになり、2019年からは血液内科を標榜しました。

現在では、近隣の医療機関から血液疾患の疑いがある患者さんをご紹介いただくこともあり、当初想定していたよりも血液内科診療のニーズは多い印象です。豊富な実績がある血液内科の先生であってもご自身で開業されるとき、クリニックでの血液内科診療には躊躇されるケースもあると思いますが、血液内科の知識と経験という貴重なリソースを活用されないのは非常に"もったいない"ことだと感じています。

当院の血液内科診療は私一人で行っているため、診断や患者さんへの説明について悩むこともありますが、一つ一つが勉強だと思って日々の診療に取り組んでいます。

Image

「クリニック経営＋血液指導医」というキャリアパス

クリニックでの診療に加えて、現在は広島大学にて週に1回、血液疾患全般と造血幹細胞移植後長期フォローアップ(LTFU)専門外来を担当しています。このように最先端の医療情報を学ぶ機会をいただけることは非常にありがたいことです。LTFU専門外来での二次がんスクリーニングの経験は、当院での診療にも生かされています。

また、大学で診療していることで、血液指導医の資格も更新できています。指導医として若手医師に血液内科の魅力を伝えられれば、結果として患者さんに還元できるはずですし、指導することで自らの研鑽にもつながると考えています。

血液内科医のキャリアパスは数多くありますが、私のような「クリニック経営＋血液指導医」というキャリアもある、という参考例になればと思います。

スクリーニングと安定期の対応、骨髄穿刺を実施

当院で診療している疾患群を表1にまとめています。基幹病院とクリニックでは扱える疾患が異なるため、精査が必要な検査や確定診断、治療方針の決定、入院加療は基幹病院にお願いしており、当院ではスクリーニングと、安定期の対応として赤血球輸血や瀉血などを行っています(表2)。骨髄穿刺は導入当初には苦労しましたが、クリニックで血液診療を行っていく中での"挑戦"という位置づけで行っています。

血液内科診療を始めるにあたり、当院の場合は輸血製剤を保存するための保冷庫、顕微鏡、骨髄穿刺を行う関連医療器具類を揃えました。しかし、これらは必ずしも必要というわけではないと思います。

なお、血液疾患患者さんの長期生存率が高まったことに伴い、固形がんや生活習慣病の合併などが散見されるようになりました。そのため、血液疾患以外の致死性疾患の早期発見など、総合診療的な対応も心掛けています。

表1 当院で診療している疾患群

- 移植後10年以上経過
- 骨髄増殖性疾患
  - 慢性骨髄性白血病(CML)
  - 真性赤血球増加症(PV)
  - 本態性血小板血症(ET)
- 再生不良性貧血 (stage 1, 2a)
- 慢性リンパ性白血病 (CLL)
- 頻回の輸血が不要な貧血
- 症状が安定した造血器腫瘍
- 骨髄異形成症候群
- 特発性血小板減少性疾患
- 移植後のワクチン再接種など

表2 平田先生が考える、血液内科における基幹病院とクリニックの区分け

	クリニック	基幹病院
検査・診断	●検査項目が限られる ➡スクリーニングを行い、精査が必要であれば基幹病院へ紹介 ●骨髄穿刺 (可能な場合に限る)	●検査項目が多い ➡精査が必要な検査と確定診断を行う
治療	●血液内科関連の処置例 - 赤血球輸血 - 瀉血　　など	●入院加療 ●専門医療 ※学生・研修医の教育、院外医師の再教育

Image

「広島大学血液内科医療連携ネットワーク」を通じて得た学びを患者さんに還元したい

地域医療連携はクリニックの医師一人が声を挙げてつくれるものではありませんので、基幹病院に舵取りをしてもらえると近隣地域の医師が動きやすいと思います。

広島大学を中心とした「広島大学血液内科地域連携ネットワーク」には、血液内科以外の診療科の先生も多数参加されています。在宅医療や終末期医療での経験が豊富な先生方もいらっしゃるため、これからいろいろ教えていただきたいと思っています。

一方で、大学病院などの基幹病院には、学生や研修医のみならず、院外にいる血液内科医の再教育まで担っていただけると、地域医療のボトムアップにつながると思います。顔が見える関係をつくり、相互に情報交換をして連携を強めていくのが望ましいと思いますし、そうして患者さんに質の高い医療を還元していきたいと考えています。

治療の進歩や高齢化に伴う血液疾患患者さんの増加に伴い、基幹病院の血液内科診療は外来・入院ともにパンク状態だと思います。私の実例から、地域医療に関与することへのハードルが少しでも下がり、血液内科診療に携わっていただける医師が少しでも増えれば幸いです。

Comment

複雑に多様化した血液疾患患者さんを、より良い方向へ導くために

―血液内科医に求められる地域診療でのイニシアチブ―

聖マリアンナ医科大学 血液・腫瘍内科 主任教授
一般社団法人 日本血液学会 在宅医療ワーキング委員会 委員長
新井 文子 先生

治療が大きく進歩する中で、血液内科診療を取り巻く環境は変化してきました。治療だけではなく、支持療法を行いながら病気と共に生きていく必要がある方が増加しているのもその一例です。今後は、こうした方々の高齢化という課題にも直面することになるでしょう。

さらに、血液内科疾患はその専門性の高さから、地域での患者さんの受け入れ先がほとんどないという問題もあります。こうした状況に対応すべく、私自身も川崎市宮前区における地域医療連携構築に取り組んでいますが、多大な労力と時間を要するこうした仕組みづくりは、一朝一夕にできるものではありません。

ここで紹介されている広島大学の取り組みでは、広島大学から働きかけて地域のクリニックと協力して複数主治医制を推進することで、患者さんを総合的にサポートすることを目指されています。このように地域の血液内科医をはじめ、在宅診療をされている先生方などが、それぞれの専門領域の強みを生かしていくことは、患者さんに大きなメリットをもたらすことでしょう。

複雑に多様化した血液疾患患者さんの状況をより良い方向へ導いていくために、基幹病院の血液内科医にはこれまで以上のスキルと周囲に働きかけるパワーが求められているのではないでしょうか。また、地域のクリニックの先生方には、血液内科診療で協力できることを発信いただけると良いのではないかと思います。血液内科の先生方には広島大学の取り組みをぜひ参考にしていただき、地域の血液内科診療のイニシアチブをとっていただくことで、患者さんをより良い医療に導いていただきたいと切に願っています。

Image

CROSS TALK

患者さんを全人的に診るために
地域における他科の先生方と共に構築する地域医療ネットワーク

広島大学 原爆放射線医科学研究所
血液・腫瘍内科研究分野 教授
一戸 辰夫 先生

×

医療法人社団 エス・ディー 平田内科 院長／
広島大学 原爆放射線医科学研究所
血液・腫瘍内科研究分野 非常勤医師
平田 裕二 先生

ホテルグランヴィア広島にて取材：2023年6月

地方の医師不足は顕著であり、患者さんを全人的に診るためには連携が不可欠

一戸　西中国エリアに該当する当大学の医療圏では、約300万人をカバーしていますが、全国と比べて血液内科医が少ないのが特徴です。これは、2004年から始まった新たな医師臨床研修制度の影響で、専門医療を担う医師が6大都市圏に集中してしまったためだと考えらえます。治療の進歩で長期生存する血液疾患患者さんは増加傾向にあることから、今後は地方の血液内科医不足がより顕著になるでしょう。

平田　様々な基幹病院とやり取りをしていますが、血液内科医の数はどこも少なく、どのように運営しているのか想像がつかないほどです。地域の血液内科診療を行うクリニックとして、基幹病院の先生たちの負担を少しでも軽減できるようにしたいと思っています。

一戸　広島大学血液内科では「患者さんの福利のため」を診療理念に掲げ、患者さんを全人的に診ることを目標にしています。そのためには、院内のワークシェアリングを進めると共に、院外の先生方との連携が不可欠であると考えています。

血液内科医とかかりつけ医の二人三脚で、血液疾患以外の合併症にも対応

一戸　血液内科の医療連携というと、管理が複雑ではない血液疾患患者さんを地域の血液内科医に再紹介する方法が最初に思い浮かびます。しかし、広島大学を中心とした地域医療ネットワークでは、血液内科医だけではなく他科の先生にもサポートいただく構想を考えました。他科で連携にご協力いただける先生方には血液疾患以外の合併症に対応していただくことで、血液内科医とかかりつけ医の二人三脚で、患者さんを重層的にケアすることを目指しています。

広島大学では地域連携に関する講演会や、各医療機関で対応いただける疾患や治療（輸血など）についてのアンケートを行い、これをもとに2023年より「広島大学血液内科地域連携ネットワーク」（以下、本ネットワーク）を構築しました。現在、12の医療機関にご参加いただいています。アンケートにご協力いただいた際には、そのレスポンスの早さからも地域の先生方の「地域医療を守りたい」という心意気を伺い知ることができました。

平田　本ネットワークには、血液内科はもちろん、救急医療や在宅医療を精力的に行っている先生方にもご参加いただいています。

患者さんに安心していただくために、本ネットワーク間で用いる疾患説明資材を統一

一戸　本ネットワークにご参加いただいている医療機関では、ノバルティスファーマが提供しているインフォームドコンセント用の資材（図1）を活用しています。疾患や治療説明を行う上で使いやすい資材ですし、同じ資材を使用することで、同じ医療の質が担保されていることを患者さんに示すことができ、患者さんの安心につながるのではないかと考えています。

平田　同じ資材で説明できるため、まだ説明されていない部分だけに時間をかけるなど、患者さんに合わせた病状説明ができ、時間短縮にもつながっています。

一戸　また、ノバルティスファーマの医療連携に関する資材も活用しています（図2）。患者さんに冊子を渡したり、ポスターを掲示したりすることで、かかりつけ医を持つことを働きかけやすくなりました。

平田　大病院でないと不安を感じる患者さんもいますので、その後のスムーズな連携のためには、お住まいの近くのクリニックでも診療を受けられることを、診断当初から伝えておくことが大切だと思います。

Image

広島大学 原爆放射線医科学研究所
血液・腫瘍内科研究分野 教授
一戸 辰夫 先生

医療法人社団 エス・ディー 平田内科 院長／
広島大学 原爆放射線医科学研究所
血液・腫瘍内科研究分野 非常勤医師
平田 裕二 先生

図1 インフォームドコンセント用の資材の一例
（インフォームドコンセント サポートライブラリー）

図2 医療連携に関する資材

ポスター

冊子

今後の課題は、病院側での細かい病状把握の難しさと、紹介状作成の煩雑さ

平田　大学病院の外来には本ネットワークの医療機関リストが置いてあるため、患者さんの逆紹介に活用しています。

一戸　患者さんにも医療機関リストをお渡ししているので、ご自身で近隣のクリニックに電話されることもあります。

　本ネットワークの今後の課題としては、かかりつけの先生にフォローいただいて病院で診療する機会が減る分、病院側で細かい病状を把握することが難しくなることが想定されます。この点については、連携を進めながら解決策を探っていきたいと思っています。また、紹介時の書類作成に時間を要することについては、診療情報提供書の定型化を進めることで対応しようとしているところです。

平田　受け入れ側の立場としては、病名と簡単な経過、ワクチンであれば接種時期と理由を中心に拝見しますので、細かい病状についての情報は不要だと思います。定型化されれば病院とクリニック双方の作業量が減ることになりますね。

一戸　平田先生は両方の立場がお分かりなので、受け入れ側が理解しやすい項目を一緒に検討していただきたいですね。

役割分担を明確化して地域に応じたフラットな組織づくりを

一戸　現行の医療制度は、患者さんからみると医療機関の機能や役割分担が不明確な部分があります。そのため、各医療機関の長所を明確にしたうえで、それぞれが異なる役割を担うフラットな組織をつくっていきたいと思います。

　本ネットワークの構築で、高い熱量で活動している医師が地域に多くいらっしゃることを知りました。そのような地域の医師にご協力いただくことで、よい組織ができると思います。

ノバルティス ファーマ株式会社
ONC00111JG0001
2023年9月作成

□□□□□

Source URL:
https://www.pro.novartis.com/jp-ja/support/lecture/hem_mailservice/hematologists_06